

DI 調査結果（令和6年1月-3月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は海外経済減速等の影響や能登半島地震の影響もあり厳しい状況にあり
来期についても懸念材料が多く厳しい見通しとなっている』

【調査概要】

1. 今期(令和6年1月-3月期)の業況調査 DI12 項目では、「受注単価販売価格」など4項目がプラス、「売上高」など8項目がマイナスとなり、9項目が悪化している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲27.5(前回▲3.4)と大きく減少した。また高騰が続く「原材料価格」が▲40.6(前回▲35.8)と再び上昇となっている。「収益状況」も▲28.5(前回▲7.7)と悪化しており、厳しい状況が窺える。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲8.6(前回▲4.6)と引き続きマイナスとなり、下振れ傾向が続いている。「受注残」3.9(前回9.9)、「生産設備」2.6(前回2.7)と、若干減少している。
3. 来期については、「来期受注」▲17.0(前回▲19.6)、「来期採算」▲16.0(前回▲16.8)と、若干ではあるが改善が期待されるものの、「来期資金繰」▲14.3(前回▲10.7)は悪化となっており、先行きについては厳しい見通しとなっている。
4. 「企業経営上の悩み」については、引き続き「受注不安定」が35.6(前回34.1)とトップになり、受注の不安感が増してきている。「人材不足」は32.4(前回33.3)と依然として高く、自動化や省人化の取組みが急がれる。
5. 景況感は海外経済減速等の影響や能登半島地震の影響もあり大きく減少となった。また、依然として原材料、エネルギー関連価格の高騰が続いており、懸念材料が多い状態にある。来期についても、長引くロシア・ウクライナ問題とともに、欧米や中国経済の動向が不透明なことから、先行きが厳しい見通しとなっている。

